

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしく生き活きと地域の中で支えあうゆったり楽しい虹の里に基づき日々取り組んでいる		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送り後に唱和し理念を共有認識し、実践に向けて取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月、施設便りを作成、発行し利用者の家族に配布している		地域にも配布していきたい
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	率先して挨拶を行い資源ゴミの回収日には中心となって行っている		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会のお祭りや子供会の行事などに参加し地域の人々と交流している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	クリーンパートナーという市の清掃活動に参加している 入居者と散歩の時に地域内の公園などのゴミ拾いなどを行っている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価について会議を行い職員全員で自己評価する事で意識を理解し、改善に取り組んでいる		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、家族、行政、町内の方々に参加して頂き、運営推進会議にて意見や提案などを出してもらっている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する勉強会には積極的参加し、困ったことがあれば長寿介護課の方に連絡し相談、助言を頂いている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見人制度について勉強会を行い知識を身につけている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、知識を学び施設内で虐待が見過ごされないように各職員、注意を払い防止に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や解約時は十分な説明を行っており不安や疑問などないかを尋ねて納得いただいてから契約を行っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議にて、家族、行政、町内の方に苦情、意見を聞き職員会議にて話し合いをしている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月「虹の里だより」を発行し利用者の日々の状況を担当スタッフが手紙を書き家族へ送付している 利用者の体調不良時、緊急時には家族へ報告している 預かり金が少なくなったら家族へ連絡し補充して頂き金銭出納帳を確認してもらいサインを頂いている。また出納帳のコピーを請求書と一緒に送付している</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・苦情箱を設置しており、家族が訪問した際などに記入していただいている。内容は、職員会議などで検討し早期の改善に努めている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度会議を開き、お互いの意見を交換し職員会議のときに職員の意見や提案を聞く機会を設けている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事の時や状況に応じて勤務の人数を増やしたりして入居者の負担にならないように対応している。また家族が行けない時など依頼によっては受診などに付き添えるように勤務調整を行っている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職が決まった時点で利用者のダメージを少なくする為に新しい職員をすばやく見つけ、馴染みの関係が作れるようにしている</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては性別、年齢で排除しないようにしている。また新しい資格を目指す職員には、勉強会を行うなど積極的支援を行っている</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>勉強会や人権研修に参加したりと積極的に取り組んでいる</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の成熟度に応じて、職場内研修や外部研修に参加する機会を作っている</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>久留米市事業者協議会の研修に参加を促し、他事業所の職員と交流できる機会を作っている</p>		他施設の見学などをできるように現在調整中
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩時間を確保し、休息できる空間を作っている。また皆で話し合える機会を設け、ストレス軽減できるようにしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>1人1人の特性や長所を把握し能力を十分に発揮できるように配慮している。研修に参加して頂き向上心がもてるよう支援している</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に本人、家族と面談する機会を持ち、本人に話を聞き快適に過ごせるように支援している</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に本人、家族に見学に来てもらい、家族から問題点や要望を聞き、家族の負担軽減できるようにしている</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族と話し合いの場を設け必要としている支援を見極め、主治医、訪看など連携を図り安心してホームで生活できるようにしている</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者に不安なく安心して利用できるように家族に協力してもらい本人が見学に来れるようにしている。本人が見学できない場合は苑より何度か顔合わせをし、入所日には何度か顔合わせをした馴染みの職員が出迎えている。また家族に見学に来て頂き、苑の雰囲気を知ってもらえるように工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、日々の生活から季節ごとの話題や散歩、外出などを通して利用者から多くのことを、学ばせてもらい、お互いとともに支えあう関係を築いている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、虹の里便り、家族への手紙を郵送しホームでの様子を報告している 面会時や電話連絡の際でも些細なことでも家族に報告し情報の共有できるようにしている		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームでの行事には家族の方々にも声かけし参加を促している		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、地域の方々が来られた際は落ち着いて過ごしていただけるようにお茶を出しゆっくり会話を楽しんでいただけるように配慮している 意思の疎通が困難な方にはスタッフが間に入り取り持つなどの配慮をしている		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが間に入り、利用者同士笑顔で過ごすことができるように支援している		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅へ復帰された方には電話をしたり、お便りを送ったりと本人、家族と継続的に関わりをもつようにしている。亡くなられた方の法事には参加している		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の希望や思いをケアプランに反映し実施している 職員間で話し合いをし統一した支援が出来るようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを利用して利用者の性格を十分に理解し対応している		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人のペースに合わせた日課表を作成し心身の状態に合わせた対応を行っている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から意見を聞きだしその人らしく生活できるように本人を中心としたケアプランを作成している		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月とし、1ヶ月ごとにモニタリングを行い見直しを行っている 状態が変化されたりと早期の見直し必要な場合は本人、家族とカンファレンスを開き新たなケアプランを作成している		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	SOAPを導入しそのままの言葉を活かした記録をしてケアプラン作りに役立っている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の気持ちを大切にし急な外出や外泊、面会などにも対応している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難訓練などには消防より指導に来てもらっている。避難訓練時は地域の方にも参加を依頼し協力してもらっている		消防団員の方々にも足を運んでいただけるように参加を依頼していく
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問看護事業所と協力し、入居者が安全で安心した生活を送れるように支援している		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には包括支援センターより参加して頂き助言を頂いている。地域の中のホームであると確認しながら協働に努めている		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1度、協力医に往診に来ていただいている。本人や家族の希望に沿い随時かかりつけ医や協力医へ受診、支援できるようにしている。24時間連絡を取れる体制を整え、緊急入院が出来るようにしている		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	関連の病院と連携し日常生活で変わったことがあれば往診してもらい、治療、薬の調整をもらっている		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に一度訪問看護に来苑してもらい、利用者の健康管理や相談、アドバイスを支援してもらっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院先へ見舞いに行き、利用者の状態を把握、医師や家族と情報交換を行い早期退院ができるように努めている</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期ケアマニュアルを整え本人、家族の意見を聞き、医師とのカンファを開き職員全員で共通したケアを行えるように努めている</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ターミナルケアをスタッフ全員が把握できるように勉強会を行っている。 ターミナルケアに向けて家族、主治医、スタッフとカンファを行い苑で「出来る事、出来ない事」を伝え、ご家族了承した上でターミナルケアの同意書を書いていただいている</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>家族の協力を得て本人がホームで慣れていただけるように、スタッフは心のケアも大切に行っている</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>居室は自宅であり、入るときはドアの声かけ、ノックを行っている言葉使いも温かく聞き取りやすくはなしかけている 個人記録、ファイル、排泄チェック表は事務室に保管している</p>		<p>引き続き外部の訪問者や家族が多いことから個人情報の取り扱いには十分な配慮をしていく</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の生活の中で本人に希望を表せるようコミュニケーションをとれるようにしている</p> <p>自分で決めて納得しながら暮らせるように支援している</p>		
54	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の決まりや都合を優先するのではなく入居者の性格や日々の身体状況に合わせ日課計画表を作成し、職員が臨機応変に対応し出来る限り希望に沿った支援をしている</p>		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>家族の協力の下利用者の希望時に応じて訪問理美容を利用される。馴染みの理美容を利用する方は本人の望む店に家族の協力のもと行ってもらっている</p>		
56	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>1人1人の力を活かせるように出来る事、出来ない事を把握し準備、後片付けを一緒に行っている</p>		
57	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>希望者には夕食に晩酌をしてもらっている。飲み物、おやつは1人1人の状態に合わせて提供している</p>		
58	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>日々の排泄チェック表を見て各個人の排泄リズムに気を配り、タイミングの良いトイレの声かけ活動を行いオムツの使用を減らせるように努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者1人1人の希望やタイミングに合わせ状態を把握し声かけ誘導を行う又順番作成表にてわかりやすいように表示して平等に1番風呂に入浴できるように努めている		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	見守りにて傾眠や疲労感見られる時は、さりげなく声かけし、休息していただけるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なことや好んでいることを把握し家事手伝いや手作業、散歩など楽しむ時間を設けている		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のスーパーに本人の好みのおやつ、日用品など購入する機会を作り、職員と一緒に計算しながら買い物をし、支払いが出来るように支援している		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調に合わせた散歩に出掛けている。自力歩行困難な方は車椅子に乗車にて外気浴を楽しまれている		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じた花見など四季を感じていただけるように支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話で家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している		本人の希望があれば適時支援する
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの方々が訪問された時は過ごされたい場所へイスを用意し、お茶を提供している		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備し運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」理解に努め、見守り、付き添いを行い拘束をしない様にしている		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の自動ドアはボタンで開閉できる仕組みになっており家族の了承を得ている。また理解できる方には押し方を教えている 居室への入室の際は声掛けを行いプライバシーの保護を心がけている		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	対面式の施設の特徴を活かして見守りを重視し、常に安全に気を配っている。また居室に入室する際はノックや声かけを行い、許可を取り、本人のプライバシーに配慮しながら入室している		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	職員間での情報交換を行い、注意の必要な物品を自己管理している入居者を定期的に把握し物品の所存確認をして危険防止に努める		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	一人ひとりの状態を把握し、事故が起きないように工夫している		
72	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	マニュアルを整備し、利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急措置が出来るように訓練や勉強会に参加している		
73	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	年に2回地域の方に参加を呼びかけ避難訓練を行っている		
74	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	家族の面会などに本人の状態を説明し、今後予測されるリスクについて把握してもらう 見守りを欠かさずに行い、口や手を出し過ぎないように、さりげなくケアするように努めている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	毎日のバイタルチェックを行い介護計画記録表など日々の記録を通じて体調の変化や異変の早期発見に努めている。医師や訪問看護に指示を仰ぎ職員間で情報を共有認識できるようにしている		
76	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	誤薬防止の為に名前、日付を確認し、服薬介助時には再度本人の顔を見ながら名前を声に出して誤薬がないようにしている。また利用者への手渡しなど誤薬のないように工夫している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状態を把握し、内服薬での排便コントロールをしている方は、医師に上申し調節してもらっている		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、個々にあった口腔ケアへの声かけ誘導介助を行っている状態に応じて訪問歯科の受診を行っている		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量の記録を行い利用者の状態に応じて食事形態を工夫している		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防のマニュアルがあり、手洗い、うがい消毒の徹底を行っている 1ケア1手洗いを重要視している		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	クックチルド方式導入しており安心して安全な食事を提供している 調理器具、食器類は洗浄後、加熱消毒を兼ねて乾燥機にかけ清潔を維持し衛生管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や植物を植え明るく親しみやすい雰囲気作りを心掛け安心して出入りできるように工夫している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物や写真を飾り季節感を感じられるように工夫し、清潔を維持し気持ちよく過ごしていただくように支援している		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、畳があり、新聞を読んだり、話をされたりと利用者が落ち着かれるところで過ごしていただけるように配慮している		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を持ってきて頂き、使用しやすいように配置し、自宅と同じよう居心地の良い空間作りに努めている		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	1日数回の換気を行い時期に応じた温度調整を行っている温度の変化が身体の負担にならないように配慮している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターを設置し階段、トイレ、浴室には手すりを設置している安全を考慮した環境設備をしている		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の状態を把握し持ち物には名前を記入し混乱、失敗、トラブルを防いでいる		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには畑や花壇がありベランダでも活動できるように利用者が楽しめるように工夫している		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ゆっくりと、穏やかに過ごせる生活空間の提供に努めている。